

『増補改訂 本願寺史』第4巻刊行にあたって（第1回）

半世紀ぶりの本願寺史編纂事業

15年をかけて本文編完結

●連載にあたって

このたび本願寺史料研究所では『増補改訂 本願寺史』第4巻を刊行しました。刊行を記念して、本号から全12回にわたって同書の内容紹介を連載いたします。

本号では刊行の背景と叙述の対象を中心に説明し、次号より同書の内容を章ごとに紹介する予定です。

●本願寺史料研究所のはじまり

本願寺史料研究所は、第23代勝如宗主の発起により1956（昭和31）年4月に設置された本願寺史編纂所にはじまります。

編纂所は、本願寺の貴重な法宝物類の

調査・研究や本願寺関係史料の蒐集・調査・研究・保存・史料集刊行などに取り組みとともに、本願寺についての本格的な歴史叙述を目指していました。

1967（昭和42）年に編纂所は現在の本願寺史料研究所へと発展しています。

●『本願寺史』編纂事業

本願寺史料研究所では、親鸞聖人700回大遠忌記念事業の一環として1961（昭和36）年より『本願寺史』の刊行をはじめました。本文編として1961年に第1巻、1968年に第2巻、1969年に第3巻を刊行し、続けて『本願寺年

表』（1981年）、『本願寺史索引』（1984年）を刊行しています。本願寺の歴史を通史として叙述した同書は、教団内外から高い評価を受けました。

しかし、刊行から半世紀を経過するなかで、親鸞聖人や本願寺に関する研究が大きく進展し、そうした知見を盛り込んだ新たな通史が求められるようになっていました。

●『増補改訂 本願寺史』刊行へ

そこで本願寺史料研究所では、親鸞聖人750回大遠忌を記念して『増補改訂 本願寺史』の刊行を計画しました。半世紀ぶりの本願寺史編纂事業となります。

2010（平成22）年の第1巻刊行以降、2015年に第2巻、2019年に第3巻をそれぞれ刊行してまいりました。

第1巻では宗祖親鸞聖人から戦国期まで、第2巻では安土桃山時代から江戸末期まで、第3巻では幕末維新期から昭和初期までを対象として本願寺と教団のあゆみをたどりました。各巻いずれも、こ



『増補改訂 本願寺史』第4巻

の半世紀のあいだの新たな知見を盛り込んだ成果です。

そして、このたびの第4巻刊行により、本文編の完結を迎えることになりました。

今後、本願寺史料研究所では年表・索引の編集および刊行を予定しています。

●第4巻の内容

旧版『本願寺史』第3巻および『増補改訂本願寺史』第3巻では、1933（昭和8）年の勝如宗主の継職までを叙述対象としていました。

今回刊行となった第4巻では、勝如宗

主継職から概ね2000（平成12）年までを対象に叙述しています。なお、この時期の本願寺教団の歴史を本格的に取りあげるのは初めての試みとなります。

ここで第4巻の目次を掲出しておきます。

- 第一章 戦時期本願寺のあゆみ
- 第二章 戦後本願寺のあゆみ
- 第三章 教団組織の改革
- 第四章 法式と法要
- 第五章 布教制度と教化団体
- 第六章 教団の国際伝道
- 第七章 教団と教育機関
- 第八章 教団の社会活動
- 第九章 同朋運動
- 第十章 教団の平和運動

このように、勝如宗主・即如宗主・専如門主のご事績に加え、教団組織・主たる法要・教化団体・国際伝道・教育機関・社会活動・同朋運動・平和運動など、多岐にわたるテーマを取りあげています。

右のテーマについては、これまで個別

に取りあげられたことはありませんが、教団全体についての体系的な叙述はありませんでした。

本願寺史料研究所ではこれらを取りあげるにあたり、関係史料を幅広く蒐集することに努め、それらの史料に基づいて丁寧な叙述することを目指しました。

●歴史と課題

戦後80年を迎える現在、歴史認識の重要性はますます高まっています。本願寺教団の近現代史をふり返り、その歴史から学ぶことは、教団の現状や今後の課題を再確認するうえで不可欠です。

ぜひ多くの方に『増補改訂本願寺史』第4巻を手にとっていただきたいと願っております。

本願寺史料研究所

『増補改訂本願寺史』第4巻

8800円（税込・送料別）

A5判、908ページ

※ご注文は本願寺出版社まで